



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2020年7月1日

7月 第221号

奈良・人と自然の会



＜田植え直前のコナギの除去＞



Contents



ホームページでは、**カラー**で見ることができます

URL <http://www.naranature.com>

壮春力歩	1	仲間入りしました	11
新組織体制について	2	字遊字感	12
幹事あいさつ	3～5	ならやま投句箱	13
Monthly Repo ならやま	6	Gallary ならやま	14
Monthly Topics 田植え	7	ならやまプロジェクト	15
里山の今・虫だより	8・9	行事案内	16
私のふるさと	10	幹事会報告・編集後記	17



6・4・4・4+1

会長 鈴木 末一

新型コロナウイルスが、瞬く間に全世界中に蔓延し、人類に多大な脅威となっています。その影響により、4+1（一年続投）ということになりました。

当会の会長職は、初代川井さんが6年、続く阿部さんからは4年という前例ができていました。小生も2期4年間、会員の皆さんの親身も及ばぬお力添えにより、どうにか職責を果たすことができ、後進に道を譲る決意で年度末を迎えていました。もちろんそれ以前からも、区切りをつけます、と宣言もしてきました。

年度末を迎えて事業報告書などの作成、次年度に向けての計画素案、会の現状を踏まえての体制づくりと会則の改定など、一連の会務のまとめをし、新しい世代にバトンを引き継ぐ準備を進めていました。ところが、コロナ禍は日々爆発的な勢いで広がり、日常生活そのもののあり方を百八十度転換しなければならないような事態になってきました。

今までの前例を破るようなことはしたくない、何よりも若返りを図らなければ、との思いは、日々高まるばかりでした。

通常総会のスタイルも、前例のない形式、議決権行使書によるなど、躊躇することなく即断即決が求められる場面が続きました。そのような状況下で、続投を固辞し続けることもいかなものかと判断し、1年間という期限付きにてお引き受けすることになりました。

「ウイズ（with）コロナ」の社会においては、従前とは真逆に、分散や疎（まば）らが価値を持つようになってきます。大都市から小都市、中山間地への移住者が増加することも想定されます。そして里山を中心に新しいライフスタイルや里山の価値の創出、余暇の有効活用など、

私たちの活動について、「3密」ではない、野外の活動の利点を活かしたプログラム作成など、知恵を出し合うことも求められます。極論かもしれませんが、コロナ禍により人間関係の希薄化の拡大、対人交流はなくてもコミュニケーションはSNSで完結してしまう関係性に、感情が失われていくのではと危惧するおきもあるかもしれませんが。しかし、「ウイズコロナ」の社会では、過密からの避難が、田園回帰の動きを促し、都市から農村や里山地域への移住が増え、新しい地域づくりや里山再生の取り組みが始まることも考えられます。

一方、自宅で過ごす時間が増え、子どもたちの自然体験活動の欠乏が心配です。いまこそ、新しい活動スタイルの創出が求められているのではないのでしょうか。

純真学園大の平嶋一臣客員教授（感性学）の指摘に共感することが多く、参考までに引用します。

子どもたちはストレスがたまると、荒い言動が出てくるようです。でも、自然の中で過ごすと、協力し合う状況が生まれ心も和らぐ。自然の中での遊びが多いと五感が刺激されて感性が鋭くなり、様々な閃きにつながります。他人との考え方の違いに気付く力は優しさを育て、表現も豊かにします。素朴な疑問に答える必要はありません。同じ目線で、不思議だね、面白いね、と声を掛ければ、子どもたちは体を使って学んでいくものです。

さまざまな自然体験が多いほど、自らの価値を積極的に評価する「自己肯定感」が育まれるとの調査結果もあるようです。外出自粛の条件下での体験の機会を作るのは難しいことですが、「すべては次世代の子どもたちのために」の志しを再確認し、試行錯誤をすることから始めねばなりません

新組織体制について

総務部

2007年4月から「ならやまプロジェクト」に取り組んで以降、市民参加型が進むにつれて近隣地域在住会員が増加し、多くの関係先からの協力も得ながら会の活動もかなりの広がりを見せています。このような幅広い活動をきちんと支え、推進していくために、組織体制を見直すこととなりました。総務部、ならやま事業部、自然文化部という3本柱のもとに、活動分野ごとにグループを編成し、そのけん引役としてGL(グループリーダー)を、そしてその役割を分担するチーフを置く体制となります。新組織体制の狙うところは、会員の皆さん一人一人が主役であるという基本に立ち、多くの方が積極的に参画していただき、的確な分業協業による円滑な組織運営を図ることにあります。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

6月2日の幹事会において、会長の選任、副会長、会計の指名、顧問、参与の委嘱承認に続き、以下の組織体制が承認されました。

奈良・人と自然の会 組織体制表				2020.6.25	
<役員>					
幹事	青木幸、有元、太田、尾崎、小島、澤田、鈴木、千載、田中善、田矢、辻本、徳地、戸田、富井、富江、平田、福田、三瀬、森・・・19名				
監査役	吉川				
<役職>					
会長	鈴木				
副会長	太田、千載、辻本、富井、平田				
会計	尾崎、澤田				
顧問	阿部				
参与	古川				
<組織>					
部門	部長	グループ	GL		チーフ
総務部	辻本	事務	千載	庶務	田矢、小島、青木幸
				渉外	戸田
				イベント	平田、村上
				助成金	辻本、小島
		会計 広報	尾崎 千載	会計・出納	澤田
				会報誌	青木幸
				HP	越智
ならやま事業部	富井	管理	徳地		澤田、青木幸
		里山	平田	副リーダー	森、福田、山本隆
		エコ	三瀬	副リーダー	富江、池山
		景観	太田	副リーダー	徳地、内河 西谷、田中善
		パトロール	小島	副リーダー	木村宥、坪井、塩本
		果樹	有元	副リーダー	川勝、尾崎
		自然文化部	太田	月例 自然教室	戸田 富江
グループ内の組織は必要に応じてチーフの選任を含めてGLが改廃を考案し、幹事会に報告するものとする。					

グループ内の組織は必要に応じてチーフの選任を含めてGLが改廃を考案し、幹事会に報告するものとする。

*また、以下のとおり、ならやまでの活動を支援する体制が整備されました。

ならやま事業部活動支援体制			2020.6.25
支援項目	推進責任者	推進員	
安全推進	平田	太田(刈払機全般)、平田(チェーンソー)、中西(耕耘機)、平山(クローラー運搬車)、千載(チップパー)	
防火推進	千載	平田、太田、辻本、木村慎	
備品管理推進	太田	平田、三瀬、田中善、小島、有元、徳地、塩本	
健康促進管理 環境美化	辻本(信)	平田、富井、太田、戸田	
福利厚生	富井	千載、青木幸、鈴木経、池山怜、徳地、当番会員	

幹事挨拶



青木 幸子

「ネイチャーなら」編集長の千載さんが副会長を兼任されることになり、ご多忙になられたためお手伝いすることになりました。編集長のご指示を仰ぎながら自分にできることを頑張りたいと思いますので、皆さまのご協力よろしくお願いいたします。

会のさまざまな情報をメールでお伝えする役目も引き続き仰せつかりましたので、また皆さまにメールでお目にかかります。

有元 康人

新年度の幹事を拝命しました、有元康人です。今年度から発足する、果樹グループを受け持つことになりました。よろしくお願いいたします。

キャンプフィールド周りにある、既存の梅やイチジク等の果樹の管理とともに、これから始める実りの森の果樹園作りです。グループの活動がより楽しい場になるよう微力ですが努力したいと思っています。

一緒に活動してもらえる方々の参加を、心待ちしています。

太田 和則

はや入会から8年目を迎えております。このたび幹事(副会長)を指名頂き大変恐縮しております。皆さまの驚きの前に、我ながら信じられない暴挙です。取り柄が“体力だけ”という人間がどのような貢献ができるか分かりませんが、“楽しく、元気に、仲良く”をモットーに頑張りたいとおもいます。よろしくお願いいたします。



尾崎 信次

昨年10月に入会して特技も無いので、ボチボチと人の後をついていけば良いのかと思っていました。図らずも会計になることを依頼され、引き受けさせていただきました。パソコンをちょっといじれると言ったのが運の尽きか。状況を完全に理解しているとはいいいがたいですが、前任者に教えてもらいながら、徐々に慣れていければと考えています。

小島 武雄

パトロールGの幹事の小島です。幹事は6年目になります、そろそろ次の方だと思います。

この間に、全長5km4コースのならやま観走路の整備は随分進みました。今年はコロナで残念ですが、会員の皆さまに楽しんで歩いてもらえる日を楽しみに活動中です。

メンテナンスも頑張っています。今年は、見晴らし広場もできます。ならやまを訪れる方に、ならやまの全体を見晴らせる、素晴らしい場所になるでしょう。

澤田 好男

僭越ながら、幹事会のそうそうたるメンバーの末席に名を連ねさせていただいております澤田好男でございます。

会計のお仕事をお手伝いさせていただいておりますが、最近では認知症の母の世話と仕事に時間を取られまして、会の活動に参加する回数も少なくなってきております。しかしながら、この会の素晴らしい活動は、私の誇りであります。少しでもお役に立てるように微力ながら尽くしてまいりたいと思っております。



千載 輝重

幹事2年目の若輩でありながら、副会長、事務GL、広報GLの大任を仰せつかりました。身の程知らずだと思いつつも、諸先輩はもとより仲間の皆さんから教えていただきながら、明るく楽しく「ちょっと無理して」努めたいと思います。いつもは景観Gの草刈り隊で活動しています。涼しくなるまで大変ですが、ウィルスと同様、雑草とも共存するつもりで、あまりシャカリキにならないようにしたいですね。

田中 善英

幹事会の末席に加えていただく事になりました。入会以来、活動日は楽しく活動に参加していました。どうも、「ならやま」の自然の中で遊ぶのが性に合っているようです。今回、幹事を仰せつかったのも何かのご縁だと思います。

皆さんの「ならやま」での活動が楽しくなるよう、手助けになればと思っています。微力ですがどうかよろしくお願いします。

田矢 恵造

三期目の幹事をお引受けしましたのですが、3年前に脳梗塞を発症し会計処理と「収支報告書」作成の時期で多数の幹事にご迷惑をお掛けしましたので不安が付きまといまいます。体力はまだまだ足りませんが、少しでも貢献出来る範囲で頑張ります。

辻本 信一

「明るく！元気に！」がモットーですが、シニア自然大学時代、アシスタントからいただいた「一歩前へ！」の言葉を大事にしています。

その言葉に励まされこれまで誰もが嫌がる、でも誰かがやらなければならない仕事は率先してやろうと気持ちを奮い立たせてきました。

そんな私の欠点は、それが高じて一人で突っ走ってしまうこと。これからは皆さんのご協力を仰ぎながらチームプレーでことにあたりたいと思います。よろしくおつきあいください。

徳地 恵男

「ならやま」は5年目で、草刈り隊の仕事を主にやりがいと楽しみを求めてやってきました。

初めて幹事となりました。主な役割は、ならやま事業部の管理として委員長の補佐という重い任務をいただいています。PJ活動の参加者の把握、全般の管理や活動の記録を作成していくことになります。前任の八木さんから丁寧に教えてもらっていますが、早く活動全般を理解し、みなさんの活動が円滑に進み、活動しやすい場になるよう努めていきたいと考えています。

戸田 博子

この会に入り3年が経ちました。

何も判らないまま2年が過ぎて少し落ち着いたと思ったら、新体制に移行する今年度も幹事をお引き受けすることに・・・！

活動を楽しませてもらっている分、お手伝いできればと思っています。

富井 忠雄

今回続投の鈴木会長より、副会長並びにならやま事業部の部長に指名を受け、事の重大さ、重圧の中で、私で務まるかと思っています。

ならやま事業部は、里山G、エコファームG、景観G(ビオ班・花班)、パトロールG、果樹G、総務部・管理など素晴らしいGリーダーの基に、協力、指導、など団結して、安全、衛生管理を行います。

皆さまの自主性を尊重して、集団力の醸成に努め、楽しく、生き生きと出来る場を提供したいと思います。皆さまと共に頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



富江 文雄

三瀬 英信

自然教室のグループリーダーに指名されましたが会に入ってまだ日も浅く、大役が務まるか自信ありません。唯、自然に対する興味、愛着は人に負けることなく持っているつもり。これを頼りにやってゆきたいと考えています。

現在進行形のコロナ騒ぎもある意味で自然のなせる業。未だかつて克服出来なかった問題はありません。何としても解決方法を見つけ出し元の健全な社会に戻す努力をしましょう。

自然教室の活動もそれに合わせて秋以降の計画を再構築する予定です。

農業経験は皆無に近い新米リーダーですが、経験豊かでエコファームに情熱を持っている方々の知見を活かしながら、会員に喜んでもらえる無農薬野菜を提供し、「ほのぼの寄金」にも貢献していきます。しかし、何よりも大切なことは「また来週もならやまへ行こう!!」と思える「楽しいエコファーム」でなければ意味がありません。時には協働作業を提案しますので、よろしくお願いします。善き仲間感謝いたします。

森 英雄

今期も引き続き幹事を仰せつかることとなりました。会の体制が大きく変革する中で、どんな形で会のお役に立てる事ができるかを考えながら、皆さまの手足纏にならぬようにやっていきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

平田 範光

監査役 吉川 利文

里山の平田です。4期目になりました。

私は汗をかくことには頓着しないのですが、口下手のため人前で話をするのが苦手です。それでも、皆さまのご協力のおかげで6年間自分なりにやって来られました。

皆さま方の足を引っ張るのも今期限りと心に決めて幹事を引き受けた以上は、それなりにやるつもりです。

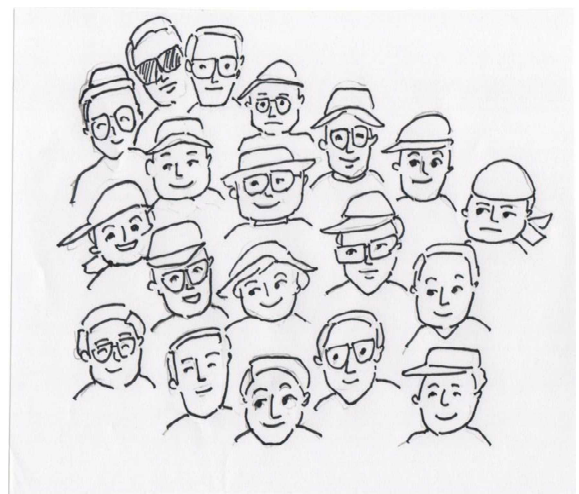
マンネリ化しないように、皆さまの意見を聞かせてもらい頑張ります。

たかがボランティア、されどボランティア。ボランティアに始まり、ボランティアに終わる。すべての物差しはボランティア度。その物差しは、「自主性」「自発性」「社会性」「連帯性」「無償性」「創造性」「開拓性」「先駆性」の精神に尽きる(‘16年8月号『壮春力歩』)。この精神で任務を全うしたいとの決意でいます。

福田 美伸

初代川井会長がユートピア構想をしきりに、反省会の席で言っておられ、竹藪の整備をして褒めていただきました。吉村先生の新春講演会の後、私が「松林の整備を行います」と言ったところ、川井さんは「じゃあやってみろ」と。その後亡くなられ、整備を進めることも曖昧になったように思ひます。

鹿背山で松林の整備、地かきを習ひ、本格的に進めたつもりです。結果が出るのに時間がかかりますが、何としても松茸を収穫し、上皇陛下にプレゼントするのが、私の目標です。



幹事さん19名のイラストです。

似ていませんが、ご想像ください。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

6月4日(木) 活動 晴れ 83名

コロナも少しずつ収束に向かい、活動も半日だが、二か月ぶりに再開される。また参加者も80名を超える。今日からは新体制でのスタートになり、早速会長からこの件についての連絡・紹介のほか、コロナ対策へのお願いも行われる。一日も早く普段通りの活動に戻りたいものだ。ならやま委員会が行われるほか、協働活動も久しぶりに実施され、楢木の本伏せ作業が行われる。里山Gは協働活動と枯死木の処理、エコGは田植えの準備を中心に、そして景観Gは協働活動のほかタケノコ掘りを行う。またバイオ班は溝の泥かきや池の整備、花班はジャーマンアイリスの草取りやアジサイの移植、加えてパトGは3コースパトロールと保護植物の保護柵づくり、更に果樹Gは梅の収穫に取り組む。今年は豊作との由。



6月12日(金)振替活動 曇り時々雨 41+1名
梅雨に入るが、予定していた協働活動の田植えは、来週の火曜日に延期される。また、判断に迷う天候の故か、活動参加者も41名と少なく寂しい活動になる。見学者1名。里山Gは竹林整備と薪棚付近の草刈り、エコGはカボチャ畑の除草とマルチ張り、そして景観GはBCの竹林整備を行う。また、花班は道沿いの花壇の

除草を中心に、パトGは2コース入り口の草刈りや保護植物の整理、その他果樹Gは梅の収穫のほか、実りの森の除草に向かう。

6月16日(火) 臨時活動 晴れ 32名

延期されていた会員の田植え。絶好の日和になり、もう8時には作業も開始される。しかし田植え作業の前のコナギ取りにはたくさんの手間が必要となり、なかなか仕事はかどらない。それでもコナギ取りと並行して機械が入り、田植え作業は瞬く間に終了。すべての作業が



終了したのは10時半。やはり動力とはすごいものだ、と思うと同時に、準備と後片付けにもそれ以上の手間が要るものと改めて実感する。

6月18日(木) 活動 曇り時々雨 66+5名

梅雨のそば降る雨の中、普段通りの活動になり、参加者にも安堵の表情が見られる。新入会員の紹介の後オリエンテーションが実施される。



近大より3名、見学者2名。里山Gは彩の森の枯死木伐倒、エコGはジャガイモの収穫、そして景観GはBC付近の草刈りを行う。また、バイオ班は西池の草刈りと貝生息調査、花班はヒマワリの苗の植え付け、パトGは保護植物やメイン階段の草刈り、その他果樹Gは梅の収穫のほか、鶏糞の搬入に時間を使う。

Monthly Topics 田植え

コナギの除去に大奮戦

鈴木 末一

佐保台小5年生を迎えての田植えは13年目を迎えた。残念なことに今年は、コロナ禍の影響で佐保台っ子は参加できず、会員さんだけの田植えになった。初めてのことだ。担任の先生も何とか取り組めないかと考えられたが、休校続きの授業の遅れを取り戻すために、やむなく体験学習を見送らざるをえなかった。

6月16日(火)、臨時活動日。天気予報どおり、梅雨の晴れ間の田植え日和。メールで呼びかけたのが効を奏したのか、予想を遥かに上回る32人が早朝から続々と集まる。エコGだけではない。まさしく協働活動日となる。

田の水面は緑一色。水草のコナギが繁殖力たくましく根を張る。過去には除草剤を散布しようかと考えた時もあったが、水田への薬剤散布は一切していない。水田の下の池で、近畿大農学部環境管理学科の指導で、奈良県野生絶滅種ベタキンの養殖に取り組んでおり、影響を及ぼしてはならないとの思いだ。



まず北側の水田で、コナギ除草作戦の開始。男女半々の体制。長靴、ソックス、素足と足元はさまざま。一步踏み入ると、ずぶずぶと足首まで泥に沈む。初体験では、なかなか足首が抜けにくい。転ばぬように、ゆっくりと前進。慣れた仲間にはレーキや素手でコナギを引き抜く、バケツに入れる。泥まみれだからバケツ一杯は



重い。これを畦に運んで捨てる、また戻るを繰り返す。徐々に田植えができるように水面が広がる。4条植えの田植え機が到着。北側の水田に移動。待ちかねたように田植え機が着水。見る見るうちに、さよむらさき(黒米)の苗が4条に植わる。続いて南の水田へ。先回りして除草しているが、機械が追いかけるので除草隊はきぜわしい。機械が届かない水田の4隅と畦の際の4辺を手植えしていく。



さよむらさきの苗は例年に比べて立派に育った。背丈は倍近い。杉やヒノキ、松などから抽出

したエキス(天然植物活力液)を初めて使い、育苗を試みた効果だ。作物は苗半作、苗代半作ともいい、苗の育ち具合がよければ栽培は半分成功したようなものといわれる。



子らとの手取り足取りの田植え風景ではなく、大人だけの田植えではあったが、今年の稲作には今まで以上の思い入れが込められているように感じた。学校の授業が軌道に乗れば7月か9月、稲の生育観察、10月には刈り取り、脱穀の収穫体験ができると、5年生は待ち望んでいるそうだ。ならやまの実りの秋、元気な子と会員が共に豊作を喜び合える日が訪れるのを祈る。

里山グループ

◆ 薪のお話



森 英雄

私たちは今、新型コロナにさらされながらも活動しているが、数年前のコナラたちはカシノナガキクイムシの猛威になすすべもなく、おののいていたことであろう。ちょうどこの頃に里山Gは里山再生計画の一環として資源利用事業化に取り組み始めた。その代表が薪の製造・販売である。コナラは火力が強く良質の薪になり、暖房用、調理用、野外用など用途は広い。我々の余力や市場の成長性を考慮し、西洋式ストーブ用の薪に特化し、棚売り(現地渡し)方式の採用を決めた。又、元薪販売業者に立ち会いを頼み、商品としての品質である事を確かめた。値段はインターネット等で調査し、市販価格の半値程度に設定した(まだ品質管理面にいくらかの不安があったからである)。

この時期に“奈良県の所有地で伐採したコナラ等を我々が加工・外販できるのであろうか?”という懸念を払しょくする新しい県条例が制定された。“県の委託を受けて里山整備等を行うボランティア団体は、団体の運営のためにこれらの副産物を販売してもいい”という事になった(当会を含む3団体が指定された)。お蔭で、堂々と広告・販売してもいいという事です。当会にとって本当にありがたい事であった。

この事業を始めて8年ほどになるが、現在はリピーターさんもでき、コンスタントに会の運営に寄与できていると思っている。この他にシイタケ・ナメコ等はならやま基金扱いで貢献しており、さらにヒラタケなど他種茸の栽培にも挑戦しているところである。

ところで、ナラ枯れ騒動は資源利用事業のきっかけとなったが、現在の新型コロナ騒動がならやま活動のありかたや個人の活動の考え方を考える機会にでもなればと思うが、どうでしょうかね。

エコファームグループ

◆ 増え続ける野草

山内 京子

黄青白紫ピンクと色とりどりに草原・畑を飾る草花。「たくさん集まってにぎやかね。ソーシャルディスタンスはとらないの?」「2か月も会わない間に随分成長したでしょ」。草花は胸を張る。「私よくクローバーと間違えられるの」。と黄色い5弁花が言います。横で白く丸いボールの様な花が「クローバーは私よ。シロツメクサとも言うわ。私は小さな蝶形花が100個くらい集まり一つのボールの様に見えるの。丸い小葉3つで1枚の葉よ。根に根粒菌を持ち空気中の窒素を固定し栄養を作れるの。だから肥料の少ない土地でも生きていけるの。野菜の肥料を横取りしなくても大丈夫。根粒菌と共生して生きてるよ」。黄色の花は、カタバミといって♡形の葉3つで1枚の葉よ。夜には葉を閉じて眠るよ。花の後ミニオクラの様な実ができて熟したら一度に何百もの種を弾き飛ばして多くの子孫を残すの。葉が赤いアカカタバミや高く立ち上がるオッタチカタバミも同じく一度に多くの種をまくよ。また南米から来たイモカタバミは、赤紫の花で種はできないけど根に子芋の様な塊茎ができて葉を出しどんどん増えるよ。またピンク色の花のムラサキカタバミも地下にゆり根の様な鱗茎を作り分化して増えていくよ。オキザリスも種はできないけど太い縄の様な塊茎で増えるよ。草たちはいろいろな方法で子孫を残すため、生き残り戦略を展開している。他にもハマスゲ、スギナ、ブタクサ、カラスムギ、イヌビユ、エノコログサ、カモガヤなど畑の争奪戦はキリがない。野草の皆さん、野菜の住みかに侵入して栄養を取ったり子孫を増やしたりしないでください。私たちは、野菜が住みやすい所で健全に成長するように草抜きに励み畑の環境整備を続けます。地力レベルを上げ栄養たっぷりのおいしい野菜がたくさん収穫できますように。

景観グループ



ならやま虫だより

◆ 3年目の竹の子掘り

松尾 弘

ならやまへ入会して三度目の春になりました。入会して初めての春に竹の子掘りを生まれて初めてしました。福田先生に竹の子の掘り方を教えてもらいました。掘る方向を見分けるのに周囲を掘ったんですが、地面は堅く石ころも多いし見分けるのが大変でした。一本掘るのに随分時間がかかりました。それでも何本か掘ることができました。盗掘の跡がたくさんあるのですが、盗掘跡の穴は小さいんです。私のように周囲を掘らなくても、どっちから掘ったらいいか分かってるんです。

実りの森の竹林の整備をしました。竹林の中を傘をさして通れる位がいいとの事。整備したのに次の春は竹の子はほとんど顔を見せませんでした。表年と裏年があるんだそうです。そして三年目の今年の春はビックリするほど大豊作でした。実りの森の孟宗竹も、ベースキャンプ西の真竹も。

竹の子を掘るのは楽しいです。今年入会された方へ竹の子の掘り方を説明したのですが、舌足らずでしたが分かってもらえたでしょうか。何本も掘ったことでしょうかから分かってもらえたと思います。今年の春は竹の子を何百本も掘ったと思います。もちろん掘り跡は小さいです。来春は裏年になるかどうか？



◆ ならやまの昆虫の消長

菊川 年明

7月は昆虫のオンパレードの月である。しかし、かつてはならやまにたくさんいた種類の昆虫なのに、近年は全く見かけなくなった昆虫があったり、逆に、以前は希な昆虫であったのに、最近は普通に見られるものもある。昆虫の消長にはいろいろなファクターがあるが、環境の変化が最も大きいのではなかろうか。

次の2種は増減の代表例である。

◆姿を消した昆虫

カナブン

クヌギやコナラなどの幹に、独特の香りのする樹液が出ているところには常連であった。それもたいてい数匹が群がっていた。しかし、ならやまに関する限り、カナブンの姿が消えて久しい。カシノナガキクイムシによるクヌギやコ



ナラの枯死と老木化による樹液の枯渇が最大の原因であろうと思われる。

◆増えた昆虫

クロコノマチョウ

忍者のようなチョウである。落ち葉の上で静止していると、周りの色に同化して、ほとんどわからなくなる。このチョウはこのことを知っているのか、たいていは落ち葉の上に止まっていて、人が間近まで近づいてもじっとしている。

以前は珍しいチョウであったが、近年は普通



にいるチョウになった。なぜ増えたのかは不思議である。幼虫はジュズダマで育つ。



私のふるさと

中井 弘

私のふるさとと言えば、幼児期を過ごした大阪阿倍野区と、学童期の一時期、戦火を逃れ疎開した香川県の吉野村を挙げることができる。

阿倍野区の自宅一帯は住宅地帯で、家の前の空き地では野菜や豆類などを耕作していた。歩いて30分ほどの大阪市長池国民学校に入学した。近隣の児童が隊列を組み、上級生の掛声で登校する。校門を入ると現人神の天皇陛下が祭られた社があり、最敬礼してから校舎に入った。

大阪市街地への夜間空襲が激しくなり、空襲警報のサイレンが鳴り響くと電灯に黒い布を被せ暗くした。灯火管制である。近づいてくるB29爆撃機の轟音が恐ろしく、家の畑に急拵えした防空壕へ逃げ込んだ。竪穴式で座って親子3人は入れる大きさで地面に板を敷き、天井には板を被せて土嚢が積まれていた。学校の隣には軍需工場「早川電機」(現シャープ)があり、航空無線機や鉱石ラジオを製造していたようだ。母は工場が爆撃目標になると聞き、私を2年生の時に、香川県の父の実家に「疎開」させた。

戦況が悪化し都市の国民学校児童の学童疎開が始まった。縁故に頼れない児童は、学校単位での「集団疎開」となり、阿倍野区の場合は和歌山県が疎開先と決まり、長池国民学校の児童たちは学校や神社・寺に疎開して行った。

私の疎開先は、空海ゆかりの満濃池が近い吉野村の農家であった。隣接している吉野国民学校に入学する。校門は家の前にあり、始業のベルを聞いてから飛び出しても間に合った。2年生は2組あり各組70名位で男女に分かれていた。従兄たちは4人兄弟で、私より2歳年上の四男坊は敏しょうでけんかも強くいつも連れ立って遊んでいた。お陰で同級生からのひどいじめはなく、母から級友へのご挨拶用にと持たされた「トンボ鉛筆」のお陰もあってか、すぐに溶け込むことができたようだ。

学校での思い出は少ないが、方言が分からずいじめられたこと、校長の朝礼(教育勅語)、婦人会の竹槍訓練、ウサギ狩りなどの記憶がある。

吉野村は中規模の村でほとんどが専業農家であった。私の家は中庭のあるコの字型の農家で、母屋の屋根裏には繭を作る小さな蚕部屋があった。牛舎では農耕用の牛3頭、馬1頭を飼育していた。軒続きで、飼葉、農具、脱穀機、籾摺機、物置の小部屋が並んでいた。

私にも仕事を与えられた。蚕棚の掃除や餌(桑の葉)やり、牛馬には干し草・わら・フスマなどの飼葉やりだが、ふんの掃除は力仕事でつらかった。中庭では、稲穂掛けや小屋用の杉丸太の皮むきがあった。この時の経験が今「ならやま」での作業に生かされている。

家から日本最大の灌漑用溜池・「満濃池」までは近い。京にいた空海は嵯峨天皇から度々決壊していた堤防修築の命を受け、唐で学ん



だ土木技術で日本最初の強い水圧に耐えられるアーチ式堤防を完成させた。讃岐は今も昔も降雨量の少ない土地である。満濃池の水は涸れることはないが、この地をすべて潤すことはできない。そのため現在に至るまで1万数千の溜池が造られている。満濃池は深くて冷たく遊泳は厳禁。近くの池や川で泳いだ。讃岐山脈を源とする土器川はよく涸れる。魚や昆虫とりには最適な場所であり級友たちと夢中になって遊んだ。高松市が夜間爆撃を受け、空が広範囲に真っ赤に染まっていたのが家から望むことができた。疎開中に戦時を意識したのはこの時だけである。幸い阿倍野の我が家は無事だった。戦争に翻弄され厳しい経験をしたが、「第二のふるさと」吉野村の3年間の生活は、私にとって原風景になっていると思う。当時の家は現存しており、今でも10人程の従兄妹が数年に一度の「いとこ会」で旧交を温めている。

仲間入りしました



石田 隆久 とし子

いままでに経験したことのないコロナ禍の中、3月に仲間入りさせていただきました。私たちは3年前に静岡県浜松市より奈良の歴史と文化にほれ込み、東大寺と平城宮跡の中間地点に転居しました。木津川の友人に誘われて、この会に入会しましたが、里山の保全の仕事はかなり厳しいと再認識しています。花組に参加させて頂き2人で一人前の初心者ですが、毎回自然の中で土と植物と優しい仲間と囲まれて楽しく過ごさせていただいています。タケノコ掘りや、シイタケの菌打ちにも参加しました。リーダーの優しい指導で少しずつ慣れてきました。今はウマノスズクサにくる「ジャコウアゲハ」や藤袴にくる「アサギマダラ」に会えるのを楽しみにしています。

澤田 恵津子

天理市で生を受け、今年の秋で満83歳になります。祖父は白川ため池を作った吉本利平で、小学5年の教科書に載っているそうです。一緒に暮らしている息子(=好男)に誘われて、この会に参加することになりました。毎朝、二月堂から三月堂、四月堂を巡り、大仏殿にお参りすることが日課になっています。目標は「毎日1万歩歩くこと」です。最近物忘れがひどくなり、皆さまのお名前や顔を覚えることが難しく、ご迷惑をおかけすることがあると思いますが、お邪魔にならないように、できるだけ参加したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

佐竹 樹之

「自然をもっと知り、自然と仲良くなりたい」という思いで、田畑を借り米や野菜を作り、土に触れる生活を始めて25年が過ぎた。近頃は家の外で遊ぶ子供が減り、ましてや自然の恵み

を感じる事が少ない生活の中で、四季在る日本の恵みをもっと味わって欲しいと思います。自分が子供時代に味わった「自然からの恵み」を取り戻す為に、何かしら自分自身が役立つことができればと思います。

高間 祥子

マラソンにハマっています。走り出したのは50歳、年々記録が伸びて、60歳でフルマラソン3時間47分、今年1月の平城京マラソンでは年代別1位。運動会の徒競走でビリが定位置だった私には夢の1位でした。ところが2月からマラソン大会軒並み中止、ただただ1人で走る日々…でもこれが楽しい!!自然のこと学んで(星9期です)良かった~尼崎から奈良に来て良かった~鳥や草木などいっぱい自然を独り占めして走る幸せを満喫しています。

豊田 治代

昨年の今頃、シニア自然大学校の実習で参加させていただき、見るもの聞くもの全てに大感激!卒業後の進路は是非ここに来させていただきたいと思い始めて約一年やっと、やっとお仲間に入れて頂きました。自然豊かな、奈良に生まれ育ってウン十年、只々忙しさにかまけて、何も学ぶことなく今に至っております。皆さんの足手まといにならないように精一杯頑張りますので、何卒よろしくお願い致します!

中村 勇二

24期緑組、その後花組、高等科...どうも人一倍記憶力に自信がなく、ゆっくり進むのが合っているのかもしれませんが。教育実習で参加させていただいた時、この会の方向性とその内容、多人数であって、しかも全体が楽しく活動されている姿に感動しました。皆さんが今までに築いてこられた自然との共生の場にご縁を頂き感謝しています。今からの活動が楽しみです。ゆっくり色々教えてください。よろしく願いいたします。





篤志に感謝感激

コロナ禍は、日常生活のあらゆる分野に甚大な影を落とし、歯車は止まった状態になった。約100年前の1918年、パンデミック（世界的大流行）となったスペインかぜ以来とも言える、史上最悪級の疫病が人類に脅威をもたらした。

2月末における全国一斉学校休校などを皮切りに、今までとは180度の転換をした新生活スタイルが求められるようになり、戸惑いを隠せないまま模索する日々が始まった。緊急事態宣言が全都道府県に発出され、不要不急の外出自粛、府県境越えの移動自粛、ステイホーム等々、感染防止策が示された。各種の基本的な遵守事項により、会の通常活動は勿論のこと、助成金関係プロジェクト活動なども大幅なスケジュール変更を余儀なくされたのである。

3月以降、当会も国や県の指針に沿い活動を自粛することになった。そのような状況が続く中で、ならやま里山林を縦貫する「奈良・西ノ京・斑鳩自転車道路」のほぼ全面にわたる舗装改修工事予告が掲出された。5月中旬から6月末までの期間、自動車は通行止めとなった。

活動自粛期間中ではあるが、夏野菜の苗作り、種まき、除草、畦や畑周りの草刈り作業など、必要最小限の作業は取り組まなければ、今までの苦労がムダになってしまう恐れがある。

そのために極く少人数ではあるが、工事に支障を与えないように通行させてもらうことはできないかと、工事の発注者である奈良県奈良土木事務所管理課に問い合わせをした。すると、直接請負業者の現場監督と話し合ってみてほしいとのことであった。

さっそく、現場監督の米澤主博さんに相談を持ちかけたところ、快く「どうぞ」とのこと。さわやかな好印象に魅せられ、現場でお会いする度によもやま話に花を咲かせることになった。

そんなある日、話のついでに米澤さんに、な



らやまでいま水路変更の計画があること、「ユニボ」作業をしてくれる業者を探していることなどを話すと、「その

ようなことなら、わが社にはユニボもあるのでやってあげますよ」とこともなげ。当初遠慮したが、“押し問答”の末、お言葉に甘えることと

なった。話はさらに進展。台風で倒れたニセアカシアの巨大な株や幹の撤去と移動、展望台に



したい高台の整地などまで献身的に取り組んでいただいた。いずれもボランティアだ。

当会としての謝意をお示ししたい。色々と関係者間で相談した結果、感謝状と感謝の気持ちを込めた記念の品をお贈りすることにし、6月17日、市内にある会社を訪問した。通された応接室に掲出してある企業理念を見てびっくり。「人との出会いを大切に 未永く社会に貢献」「自然との“共存・共栄”は私たちの願い」——まるで当会の目標ではないか。



請負業者の代表取締役社長に感謝状と記念品(写真左)、同社土木部次長でもある米澤さんに記念品を

贈呈(写真右)した後、同社幹部らと交えてしばし歓談。同社の企業理念と当会のモ



ットー「すべては次世代の子どもたちのために」とでエールを交換。双方、今度のご縁を大切に社会貢献を誓い合いました。

(鈴木末一 記)

ならやまトーク・投句 新緑編

とりどりのコロナマスクと紫陽花と 青木幸子
(いろいろの洒落マスクが目を楽ませる。「紫陽花」の語感が響き合う)

親の声拙く真似てカラスの子 ハ本順一
(親は悪声のカラス、雛鳥くらいは可愛い声で啼いてほしいのだが)

子等待つや泥田の蛙首もたげ ハ本順一
(佐保台小の田植は中止。トノサマガエルだけが首を長くして待つ)

残り鴨ならやま池を別宅に 鈴木未一
(ならやま西池、カルガモの定宿になったか。「残り鴨」は夏の季語)

石叩き競歩す梅雨の舗装路 鈴木未一
(舗装の終った自転車道路、梅雨空に競歩するお馴染の鶴鶴たち)

コロナ禍のヤマなお見え五月鬱 岡田安弘
(ならやまも自粛延長。再開に向け模索が続く。しばらくの辛抱を)

入社式孫の門出はテレワーク 岡田安弘
(コロナ禍で初仕事は在宅勤務。上司や同期の顔もうろ覚えと嘆く)

ならやまの里華やがり柿若葉 阿部和生
(実りの森、緑の中にひととき美しい柿の若葉、まさに色の饗宴だ)

投句歓迎 古川まで

メタセコイア芽吹きて精華大通 阿部和生
(学研都市名物のメタセコイア並木、いま芽吹いた新緑が地平まで)

春の水小魚の群れて光粒 中井弘
(水の温んだ小川に小魚の群れ。キラキラと光の粒が動いて見える)

静寂や令和二年の散る桜 中井弘
(御岳教大和本宮、コロナ禍に閑散とした中に今年の桜が散っていく)

朝刊の折り込みチラシ減る四月 藤原 勉
(外出自粛、イベント、パーティの中止……。四月は我慢の月だった)

払へども居眠り顔に五月蠅かな 藤原 勉
(コロナでならやまの活動は休止。つい体がなまって。五月蠅さばえ)

紫陽花の雨をまとひて艶めけり 藤原 勉
(梅雨、ならやまの紫陽花が美しい。十数年の地道な努力の精華、ただ敬服)

コロナ禍に偕老同穴四月尽く 古川祐司
(買い物は三日に一度。老妻と二人暮らしにならやまの筍が幅を利かす)

真澄なる空に青梅の連珠かな 古川祐司
(今年の南高梅は豊作。青空に大粒の青梅が連珠のように連なっている)



▲油彩 10号「正倉院への道」 小田 進八郎



▲クラフト「干支ネズミ」 桜木 晴代



▲陶芸「猫」 小島 武雄



▲水彩画「ビヨウヤナギ」 前 津久見

掲載作品はホームページではカラーでご覧いただけます。皆さまからの作品のご応募をお待ちしております。絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸・パッチワーク・切り絵・自然工作など。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動日： 毎週木曜日 8:00~12:00 (夏時間)

(前日水曜日、19時前のNHKTV天気予報にて午前中の降雨確率

60%以上の場合は翌金曜日、木曜日の同予報も同様であれば金曜日中止)

場 所： 奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約16haの里山林地

アクセス： JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩10分

または、奈良交通バス亭「佐保台西口」又は「平城大橋」から徒歩7分

携行品など： 弁当、飲み物、軍手(作業用具は現地で用意) コップなど

お問い合わせ： 冨井



7月の活動について

7月 2日：協働活動日・シイタケ榎木天地替え・松整備地区笹刈り・アダプトプログラム

7月18日：イベント：夏だ！休みだ！里山で遊ぼう①

7月30日： 備品点検日

※新人研修 2日：パトロールグループ 9日：景観グループ 16日：里山グループ

7月の各グループ活動予定

グループ	活 動 予 定
里 山	枯死木伐採・枝整理・里山林内の整理・下草刈り・イベントの準備・マキ割り・ (水路の改修) ユート:協働作業、松整備地区笹刈り
エコファーム	畑の除草と追肥(里芋、さつま芋、茄子、唐辛子、トマト、キュウリ、カボチャ) 枝豆の収穫・水田の除草・水田周辺の除草・収穫(茄子、トマト、キュウリ)・ 水田土用干し作業・水田の灌水・畑の灌水準備(里芋等)・畑のチップ入れと耕 転(玉葱、ジャガイモ、ニンニク)・カボチャ、西瓜の収穫
景 観	整備：彩りの森・実りの森・BC周辺・佐保自然の森・蜜蜂巣箱周辺整備 ビオ：池整備・水生生物調査 花：アガパンサス草取り、柵作り替え、ビオラ撤収・夏花施肥、水遣り、 草取り、アジサイ剪定、花ナス苗植え付け・蛍袋剪定・寒冷紗掛け・西入 口シャガ、半夏生間引き
パトロール	ミーティング、観察路整備・丸太階段、手摺ロープ、笹草刈り 水路改修工事・見晴らし広場準備 コース：3-4-1-2
果 樹	実りの森の除草・器具収納倉庫の基礎工事・ブルーベリーの収穫・ウメの 選定・イチジクの収穫

行事案内



歴史クラブ7月研修会のご案内

八木 健彦

新型コロナ禍の下、様々なイベントが中止になってきましたが、再開の時を迎えました。

7月度のテーマは「^{しとみやきたいせき}都屋北遺跡の世界～^{ばひつ}馬匹・馬具生産と騎馬文化の広がり～」です。馬がいなかった日本に朝鮮半島から持ち込まれたのは古墳時代の中期ですが、その軍事的、経済的なインパクトは大きく、馬によってこの国は大きく変わりました。五世紀における北東アジアの状況と馬の渡来、その地政学的、社会経済学的意義をヤマト王権による河内の馬飼いの里・「^{さくら}讚良の牧」から学びます。今回は夏の暑い時期でもあり、**四条畷市立歴史民俗資料館での見学と講義**に集中し、募集人員は16人に限定します。資料館には全国でも珍しいほどに馬にかかわる多数の出土品が展示されており、河内のこの地が、百済系の馬飼育集団によって我が国でも早い段階に馬の飼育が始められたことが分かります。長年発掘に携わってこられた**野島館長**によるご説明とご講演をお願いしています。その後、**希望者のみ**都屋北遺跡など古代史跡や遺跡を訪ねます。(約2時間)

* 歴史会員外の方もお申込みください。

実施要領

実施日：令和2年7月15日(水)雨天実施

集合場所：JR 四条畷駅改札口 10:10 集合

持ち物：弁当・飲み物・雨具等

交通機関：①近鉄西大寺(9:09)－新祝園(9:22)

(歩3分) JR 祝園(9:34)－四条畷(10:07)

②JR 木津(9:28)－四条畷(10:07)

③JR 京橋(9:54)－四条畷(10:05)

(車での来場可能。歴史民俗資料館駐車場5台)

行程：JR 四条畷～歴史民俗資料館～昼食・講演
14時半頃終了予定。その後希望者があれば、市内の歴史や馬に関わる遺跡を訪ねます。

世話人：○八木健彦・川口達夫・中井弘

申込み先：青木幸子

問い合わせ先：中井弘

公開イベント

「夏だ！休みだ！里山で遊ぼう！①」

新型コロナウイルス感染予防のため、時間と参加人数を制限して実施します。内容については今後の状況により変更もありますので詳細は7月1日以降の当会HPをご参照ください。

1. 日 時：令和2年7月18日(土)

09:00～12:00(受付開始08:30)

前日19時前のNHK天気予報で奈良県北部の降水確率が50%以上の場合は7月25日(土)に延期。

2. 場 所：ならやまベースキャンプ

3. 内 容：昆虫観察、植物観察、里山遊び他

4. 参加費用：無料

5. 募集人員：小学生のご家族合わせて30名

6. 申込方法：7月1日よりメールにて受付

メール宛先：event@naranature.com



8月ならやま活動&行事予告

* ならやま活動(木)

6日 協働活動日・アダプトプログラム

13日 夏休み

* 17日 自然教室

平城旧跡 燕の埒入り観察 中止

* 22日 イベント 雨→29日

夏だ休みだ里山で遊ぼう②



2020 年 6 月度幹事会報告

日時：6 月 2 日（火）10:00～12:00

場所：ホテル リガーレ春日野

出席者：17 名 欠席 2 名

（議事録よりトピックスのみ）

※鈴木会長は 2 期 4 年で任期満了されたが、コロナ禍という非常事態を乗り切るため 1 年に限り引き続き会長職を担っていただくことで、ご本人の了承を得るとともに幹事会で承認された。

I 会長挨拶 1 年に限り続投を引き受けることにした。会の 20 周年、ならやまプロジェクト 15 年目の節目を新役員の皆さまとしっかり実のあるものとした。

II 会計、総務部

- ・会計報告：4 月度、5 月度報告
- ・会計補助簿と領収書貼り付け用紙の更新、領収書宛名に会名明記（押印）を徹底。
- ・新たに修理費の費目を設ける。

III 活動行事に関わる課題

- ・6 月 例研、蕎麦クラブ、自然観察会 中止
- ・8 月 一泊研修会中止

IV 企画、助成金

- ・図録編集委員会 6 月 11 日午後開催予定。
- ・コロナ禍により助成金対応の期限も数か月先送りになる案件が多くなってきている。
- ・緑陰広場の水路付け替え工事掘削作業完了。

V コロナ禍の中での当面の活動について

- ・活動は午前中のみ 9 時～12 時とする。
- ・グループ単位で朝の打ち合わせ、活動、終礼まで行う。
- ・参加者名簿の記入時にマスクの確認、体温記入をする。
- ・アルコール消毒、対面対話を避け 2m 離れて活動する。

VI 広報、その他

- ・新幹事の挨拶文掲載
- ・広報誌担当チーフが原稿を取りまとめる。

次回 6 月 30 日（火）10 時～12 時

以上



<コロナからの贈り物>

新型コロナウイルスまん延阻止のため、緊急事態宣言が全国に出された。一部の店舗や売り場、事業所以外は営業自粛が要請され、人々の姿が街の中からも消えた。

桜の花も終わり、夏のイベントや祭りなどが中止になり、感染を避けて家の中にいると、心に暗い雲が覆ってくる気がした。

先日、食品を買いに店に行ったときだった。

いつもはあまり買わない小さなケーキ（不要、不急の買い物？）を注文した。いろいろの不安や思いを抱きながら、その店員さんは優しく微笑し、とても丁寧に應對してくれた。元々涙もろい性格ではあるが、思わず涙が出てきてしまった。

このような事態が起きなければ、その人の行動に感じなかった感情だ。ソーシャル・ディスタンスが求められ、SNS のニュースなど通信情報に頼ることが多くなっている中で、現実の人との繋がりはこんなに心を動かすのか？

私たちは些細なことに怒り、喜び、悲しみ、笑う弱い生き物なのだ。この目に見えないウイルスは、地球の全ての人それぞれに「ある反省」を促している気がする。

ならやまの活動も、人の繋がりと自然の関わりで成り立っている。コロナウイルスとの共存は、何かを学ぶ新しいスタートになるかもしれない。

発行：奈良・人と自然の会

URL : <http://www.naranature.com>

編集代表 Mail: editor@naranature.com

<表紙写真>

田植え直前のコナギの除去

いざ、田植えと思いきや、水田に大量に繁茂したコナギの除去に大わらわ（6 月 16 日臨時活動日）